

じもとホールディングス連結業績

(単位:百万円、%)

	27年3月期	28年3月期	前年同期比	増減率
連結経常収益	42,755	42,522	△233	△0.5
経常利益	6,751	5,283	△1,467	△21.7
親会社株主に 帰属する 当期純利益	5,986	4,889	△1,096	△18.3

きらやか銀行・仙台銀行(単体)の2行合算

(単位:百万円、%)

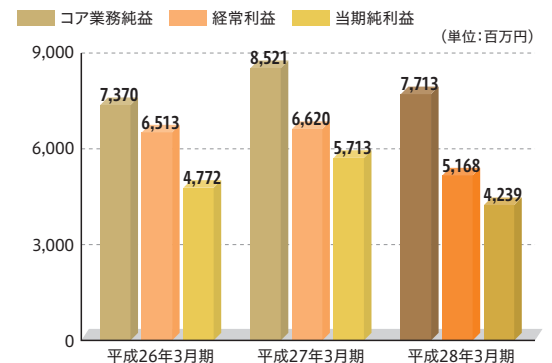
	2行合算			
	27年3月期	28年3月期	前年同期比	増減率
経常収益	42,213	41,812	△400	△0.9
業務粗利益	34,889	32,604	△2,284	△6.5
経費 (除く臨時処理分)	25,290	25,789	499	1.9
業務純益	10,210	7,630	△2,579	△25.2
コア業務純益	8,521	7,713	△807	△9.4
経常利益	6,620	5,168	△1,451	△21.9
当期純利益	5,713	4,239	△1,473	△25.7
貸出金	1,599,527	1,677,897	78,369	4.9
預金等 (譲渡性預金を含む)	2,368,310	2,346,118	△22,192	△0.9
有価証券	753,315	682,674	△70,640	△9.3

平成28年3月期の連結業績は、連結経常収益は425億22百万円、経常利益は52億83百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は48億89百万円となりました。

2行合算の経常収益は、前年同期比4億円減少の418億12百万円となりました。

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、役務取引等利益の減少に加え、経費が増加したことから、前年同期比8億7百万円減少の77億13百万円となりました。

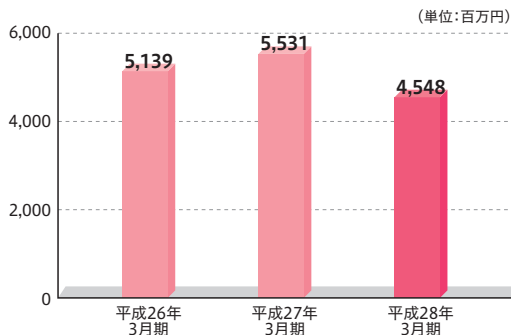
経常利益は、前年同期比14億51百万円減少の51億68百万円、当期純利益は前年同期比14億73百万円減少の42億39百万円となりました。



業績ハイライト(単体)

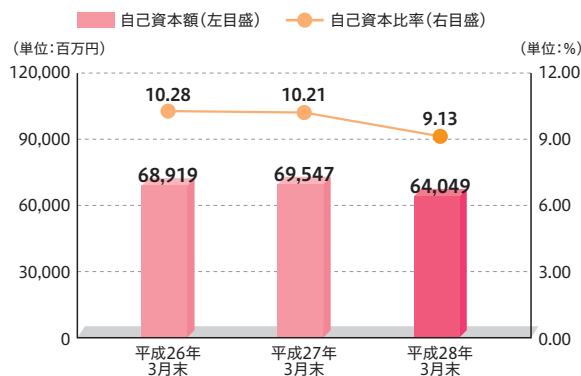
コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益や役務取引等利益が減少し、また、システム移行に伴う費用等により物件費が増加したことなどから、前年同期比9億83百万円減少の45億48百万円(増減率△17.7%)となりました。



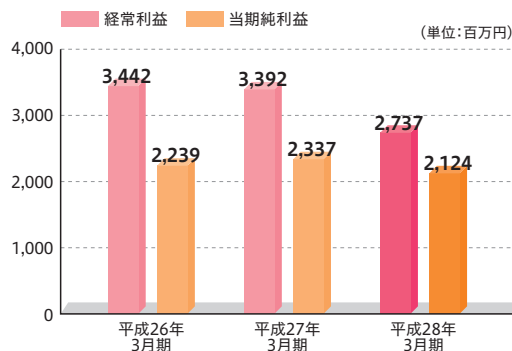
自己資本比率の状況

自己資本比率は、劣後特約付社債等を期限前に償還したことで自己資本額(分子)が減少。また、貸出金残高の増加に伴いリスクアセット(分母)が増加したことなどから、平成27年3月末比1.08ポイント低下の9.13%となりました。



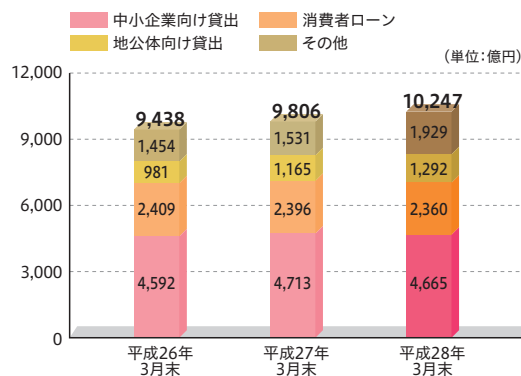
経常利益・当期純利益の状況

経常利益は前年同期比6億55百万円減少の27億37百万円、当期純利益は前年同期比2億12百万円減少の21億24百万円となりました。



貸出金の状況

貸出金残高は、市場性ローンや地方公共団体向け貸出が増加したことなどから、平成27年3月末比440億52百万円増加の1兆247億11百万円となりました。

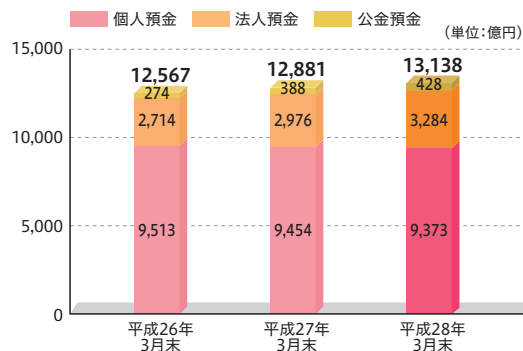


用語解説

■ コア業務純益 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支のことを指します。

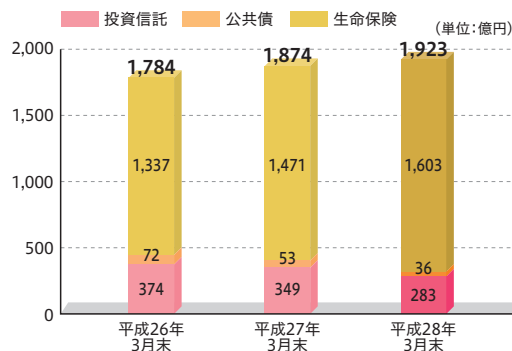
預金(譲渡性預金を含む)の状況

預金残高は、法人預金及び公金預金が増加したこと
から、平成27年3月末比257億8百万円増加の1兆
3,138億18百万円となりました。



預かり資産の状況

預かり資産残高は、安定志向にあるお客さまニーズ
の取込みなどにより生命保険残高が増加したこと
などから、平成27年3月末比49億10百万円増加の
1,923億14百万円となりました。

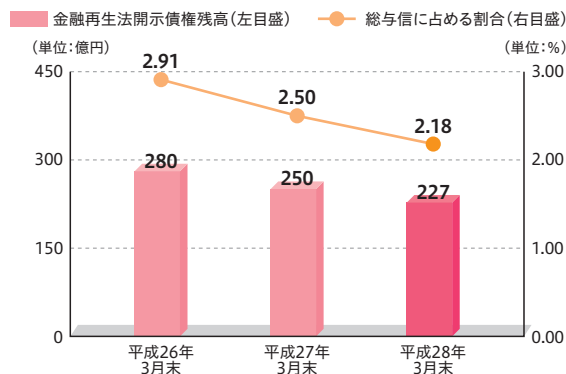


金融再生法開示債権の状況

金融再生法に基づく開示債権の残高は、平成27年
3月末比23億16百万円減少の227億19百万円とな
りました。

総与信額に占める割合は、平成27年3月末比0.32
ポイント低下し2.18%となりました。

金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



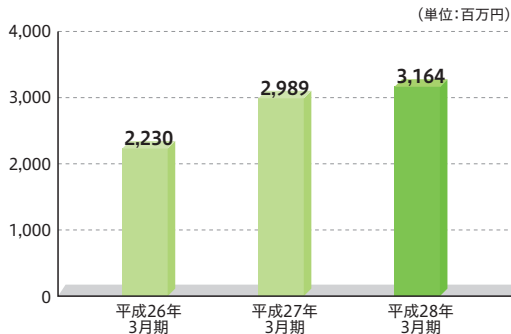
■ 経 常 利 益 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。
■ 当期純利益 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示して
おります。

業績ハイライト(単体)

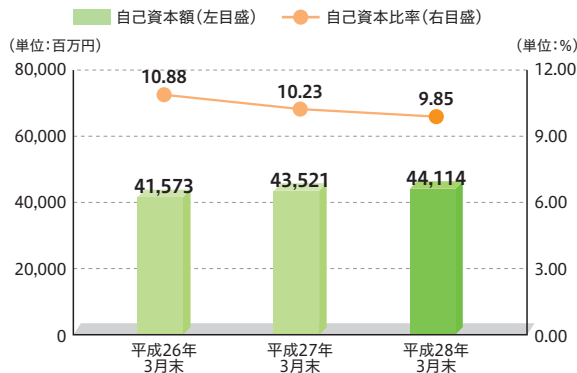
コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が増加したことや物件費の削減に努めたことなどから、前年同期比1億75百万円増加の31億64百万円（増減率5.8%）となりました。



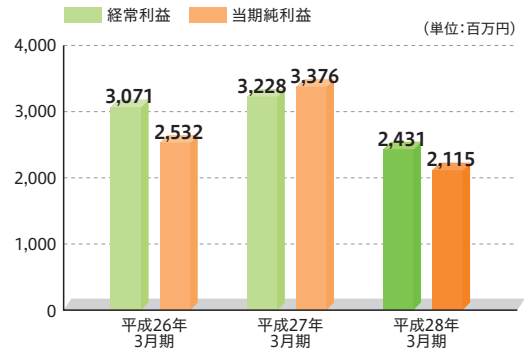
自己資本比率の状況

自己資本比率は、当期純利益を21億15百万円計上したことで自己資本額（分子）が増加した一方で、貸出金残高の増加に伴いリスクアセット（分母）が増加したことなどから、平成27年3月末比0.38ポイント低下の9.85%となりました。



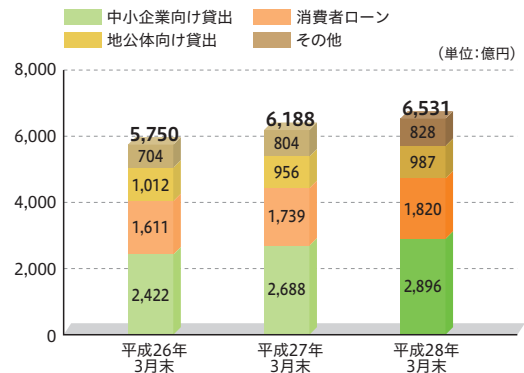
経常利益・当期純利益の状況

経常利益は、前年同期比7億96百万円減少の24億31百万円、当期純利益は、前年同期比12億61百万円減少の21億15百万円となりました。



貸出金の状況

貸出金残高は、震災復興に係る様々な資金需要への対応により、中小企業向け貸出や住宅ローン、個人ローンが増加したことなどから、平成27年3月末比343億16百万円増加の6,531億86百万円となりました。

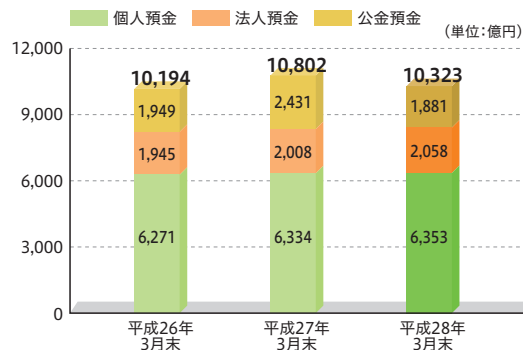


用語解説

■ コア業務純益 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支のことを指します。

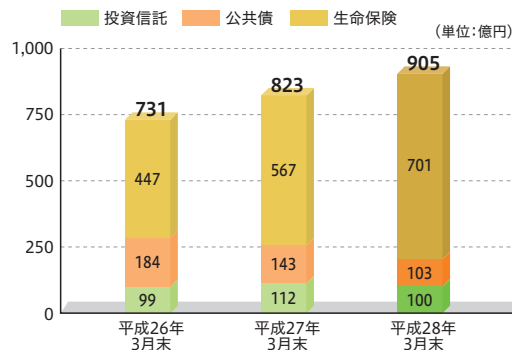
預金(譲渡性預金を含む)の状況

預金残高は、公金預金の減少により、平成27年3月末比479億1百万円減少の1兆323億円となりました。



預かり資産の状況

預かり資産残高は、お客さまの資金運用ニーズへの対応により、生命保険残高が増加したことなどから、平成27年3月末比81億91百万円増加の905億28百万円となりました。

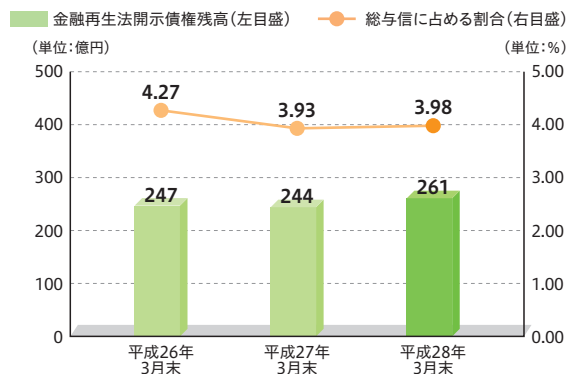


金融再生法開示債権の状況

金融再生法に基づく開示債権の残高は、一部の企業のランクダウン等により、平成27年3月末比17億36百万円増加の261億96百万円となりました。

総与信額に占める割合は、平成27年3月末比0.05ポイント上昇の3.98%となりました。

金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



■ 経常利益 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。
 ■ 当期純利益 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。